

第1学年社会科(歴史的分野)学習指導案

日 時 平成25年11月12日(火)5校時
学 級 1年3組(男17名 女15名 計32名)
指 導 者 伊 東 昭 信(遠野市立遠野中学校)
共同研究者 堀 村 克 利(遠野市立遠野東中学校)
榎 原 正 弥(遠野市立遠野小学校)

1 単元名 第3章 中世の日本と世界 第2編 ゆれ動く武家政治と社会 6 元軍の襲来

2 単元について

(1)単元について

本単元は、学習指導要領〔歴史的分野〕の「(3)中世の日本」の「中項目ア」にもとづいて行われるものである。この単元では、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させることをねらいとしている。

「(3)中世の日本」の中項目アの学習内容の取り扱いにおいて、「武家政治の特色」については、主従の結びつきや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすることが重要である。その際に、武士が台頭し、やがて「主従の結びつきや武力を背景にして」東国に武家政権が成立したことなど、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせることをねらいとしている。

武家政治は、貴族の警護役だった武士が台頭し、幕府を開いて始まる。将軍は、御家人に対して領地を保証したり、守護や地頭に任命したりして御恩をほどこした。それに対して御家人は、将軍の命令に従い、戦いなどに加わる奉公をもってこたえた。このように、土地を仲立ちとして結ばれた主従関係を封建制度という。やがて、元寇後の恩賞不足などによって御家人の信頼を失った鎌倉幕府は滅びる。続く室町幕府も下剋上の風潮のなかで現れた戦国大名により衰え、支配をめぐる争う戦国時代が到来する。

(2)生徒について

小学校では鎌倉幕府がご恩と奉公の主従の結びつきを背景とする武士による政治が始まったことについて学習してきている。元寇についても学んでおり、暴風雨により二度の攻撃をしのいだこともおおむねおさえられている。しかし、この元寇がその後の社会にどのような影響を与え、後の鎌倉幕府滅亡につながったのかは十分にとらえられていない。授業では、社会的事象についての特色をとらえて説明したり、自分の考えを論述したりする活動について多くの生徒が苦手としている。一方で、授業で紹介した歴史的なエピソードを想像を膨らませて考えることに楽しみを感じている生徒は多い。そのような知的好奇心を大切にしながら、基礎的・基本的な知識を習得させ、それらを活用して社会的事象について、多面的・多角的にとらえる力を伸ばしていきたいと考える。

(3)指導について

授業を展開するにあたっては、学習課題について調べる際に、資料やグラフ、地図など様々な資料から事実を読み取ったり、各資料を関連させて課題について考えたりすることで、生徒の情報を収集し、分析する力を高めていきたい。また、その際には、読み取った内容を、自分の言葉で説明する活動を行うことで、生徒の説明する力も伸ばしていきたい。以上の活動で得られた基礎的・基本的な知識を活用して、さらに歴史的特色についての認識を深められるような問いについて考えさせ、互いに交流させることで、生徒の思考力や判断力を高めていきたい。最後には課題について文章でまとめ、中世の日本についてのイメージを構成させ、歴史的認識を深めることができるようにしていきたいと考える。

3 単元の指導計画

(1)単元の目標

- ・南北朝の争乱と室町幕府の成立、応仁の乱後の社会的な変動と戦国の動乱について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。
- ・農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現代との結び付きが見られることに気付く。

(2)評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
鎌倉幕府滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に対する関心を高め、意欲的に迫り、中世の特徴をとらえようとする。	鎌倉幕府滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に関するさまざまな資料を活用し、読み取ったり、図表にまとめたりしている。	鎌倉幕府滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化について理解し、その知識を身につけている。

(3)単元の展開〔8時間〕

	目標	主な学習活動と内容	主な資料	評価規準と評価方法
6 元軍の襲来 (1) 【本時】	元寇が幕府政治に及ぼした影響や、鎌倉幕府が滅亡した要因について、幕府と御家人の関係や悪党の出現などとの関わりから考える。	(1)蒙古襲来絵詞を読み取り、関心を高める。 (2)竹崎季長と安達泰盛の会話を考える。 (3)元寇の後の社会の動きについてまとめる。	「蒙古襲来絵詞」	元寇が幕府に与えた影響を幕府と御家人の関係から考え、まとめている。 【思考・判断・表現】 →ノート・発言・話し合い
7 このごろ都にはやるもの (1)	建武の新政が失敗した理由について考えるとともに、南北朝の争乱が続くなかで、地方の守護が力を強めて行ったことを理解する。	(1)歌から世の中の様子を読み取り、関心を高める。 (2)室町幕府のしくみと将軍と守護大名の関係を考える。 (3)室町幕府のしくみについてまとめる。	「二条河原落書」 「主な守護大名とその領地」	資料から社会の様子、幕府が多額の守護大名によって支えられていたことを読み取る。 【技能】 →ノート・発言
8 行き交う海賊船と貿易船 (1)	明との貿易で勘合を用いた理由や、足利義満が「日本国王」と名のつた理由について考える。	(1)倭寇のエピソードに関心を高める。 (2)日本、明・朝鮮、倭寇の関係を図で表す。 (3)日本、明・朝鮮、倭寇の関係を説明する。	「室町時代の海上交通と倭寇の活動」	足利義満が「日本国王」と名のつた理由や、日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで考察している。 【思考・判断・表現】 →ノート・発言
9 北と南で開かれた交易 (1)	琉球では、琉球王国が東アジアと東南アジアの国々を結ぶ中継貿易で栄え、独自の文化を発展させ、蝦夷地では先住民として暮らすアイヌ民族がまとまりを強め、交易を行うなかで和人と争いも起こったことを理解する。	(1)沖縄について知っていることを出し合い関心を高める。 (2)教科書などから琉球王国・蝦夷地での動きを理解する。 (3)15世紀の日本の南北交易の関係をまとめる。	「15世紀ごろの琉球王国とアイヌ民族の交易ルート」	アイヌ民族や琉球王国はどんな地域と交易していたかを、資料を活用して調べている。 【技能】 →ノート・発言

10 団結する村・にぎわう町 (1)	農業生産の向上を背景に、生活の取り決めや他村との交渉など、惣による自治を行う村も見られるようになったことに気づく。 産業や流通が発達するなかで、各地に新たな町が生まれ、町衆による自治を行う都市も現れたことを理解する。	(1)資料から人々の暮らしぶりに関心を高める。 (2)村と町それぞれで自治が生まれたことを理解する。 (3)村や町での自治の動きの背景を説明する。	「月次風俗 図屏風」	惣や町衆など民衆の自治組織が発達し力が伸びてきた背景には産業の発達があることに関心を高め、農業や商業・手工業などの産業の様子を意欲的に発表しようとしている。 【関心・意欲・態度】 →ノート・発言
11 下克上の世へ (1)	応仁の乱ののち、下剋上の風潮が広がるなかで、各地に戦国大名が割拠し、実力で領国を支配したことを理解する。	(1)足輕の活躍から世の中の様子を想起する。 (2)幕府の衰えから下剋上の風潮が広まったことを理解する。 (3)戦国大名の台頭についてまとめる。	「信玄の分 国法」	応仁の乱以降、下剋上の風潮が強まるなかで起きた各地の一揆の要求と特色を知り、その背景には民衆の自治の進展があったことを理解している。また、戦国大名が実力で国内を支配していったことを理解している。 【知識・理解】 →ノート・発言
12 今につながる文化の芽生え (1)	室町文化のなかには、能や狂言、書院造、茶の湯など、今日まで引き継がれているものが多いことに気づく。	(1)金閣・銀閣から室町文化に関心をもつ。 (2)公家と武家、地方と都市の民衆が文化を生んだことを理解する。 (3)室町文化と今日の文化のつながりをまとめる。	「洛中洛外 図屏風」	日本の伝統文化に関心を高め、室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを意欲的に見つけ出そうとしている。 【関心・意欲・態度】 →ノート・発言
学習の まとめ (1)	中世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。	(1)候補を挙げ、理由を考える。 (2)グループで交流する。 (3)中世のまとめを記述させる。		中世のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。 【思考・判断・表現】 →ノート・発言

4 本時の指導

(1)目標

- ・「蒙古襲来絵詞」の絵を見て、元寇が幕府政治に及ぼした影響を考察し、幕府と御家人の主従関係のゆらぎが鎌倉幕府滅亡の要因になったことを、説明することができる。【思考・判断・表現】

(2)評価

評価の観点	評価方法と【評価規準】(概ね満足できる状況)	努力を要する生徒への手だて
社会的な思考・判断・表現	4(4)の場面の話し合いや発表から「元寇が幕府政治に及ぼした影響について、幕府と御家人の主従関係から考えているか」を評価する。	4(4)の場面で、グループ内の友達の考えや板書の内容を参考にして考えさせる。

(3)展開

	学習活動と内容	指導上の留意点	資料等
導入 5	<p>1 前時までの復習</p> <p>(1) 鎌倉幕府の、将軍と御家人の主従関係について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御恩と奉公 ・いざ鎌倉 <p>2 学習課題の提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土地を仲立ちとした主従関係を既習の図を示して確認する。 ・資料を提示し、小学校の学習を想起させ、学習課題につなげる。 	<p>「蒙古襲来絵詞」</p> <p>(戦いの場面)</p>
展開 40	<p>元寇は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのでしょうか。</p> <p>3 課題に対しての予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の力を弱めた。 ・幕府がほろぶ原因になった。 <p>4 課題についての検証</p> <p>(1) 元寇について調べ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1274年 文永の役 1281年 弘安の役 博多湾 ・御家人が20kmにわたる防塁を築いた。 ・新たな土地を手に入れられなかった。 <p>(2) 御家人たちの対応を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇敢に戦えば恩賞をもらえると期待した。 ・「いざ鎌倉」と同じで「いざ博多」と戦いに向かった。 <p>(3) 「蒙古襲来絵詞」を読み解き、元との戦いについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元は集団戦法、日本は一騎打ち(戦法) ・元はてつほう・弓矢、日本は刀・弓矢(武器) ・元は軽装、日本は鎧・兜(服装) <p>(4) 竹崎季長と安達泰盛の対談場面から、「元寇」の後、幕府政治が揺らいできたことを考察し、表現する。</p> <p>① 班で2人の対談のセリフを考え、発表シートに記入する。</p> <p>② 班で発表させ、幕府政治が揺らいできたことを、考えたセリフの理由から追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国との戦いだったので、土地を得ることができなかった。 ・御家人に十分な恩賞を与えることができなくなった。 ・御家人以外にも恩賞を要求した人がいた。 ・幕府の徳政令が世の中を混乱させたこと。 <p>(5) 鎌倉幕府がほろぶまでの過程を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が挙兵し、協力した武士を確認する。 ・鎌倉幕府が滅んだ年を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習事項を引き出す。 ・教科書で事前に調べてきたことをもとに発表させる。 ・防塁建築作業にかかる苦勞にふれ、多くの人がかかわったことにふれる。 ・小学校での既習事項も想起させながら、調べる視点を示し、元と日本の戦い方の違いを比べさせる。 ・班で役割を決め、発表させる。 ・幕府(泰盛)が苦しい立場にあることを理解させ、土地を仲立ちとした主従関係がこわれていったことを追求させる。 ・元寇後、鎌倉幕府がほろぶまでには時間が経過していることを確認する。 	<p>「蒙古襲来絵詞」</p> <p>(戦いの場面)</p> <p>「蒙古襲来絵詞」</p> <p>(対談の場面)</p> <p>発表シート</p> <p>【評価場面一思】</p>
終末 5	<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに本時のまとめを記入する。 <p>「元寇の後、幕府は御家人に対し十分な土地を与えることができなかった。御恩と奉公の主従関係が崩れたことで幕府の力は衰えた。」</p> <p>6 次時の学習内容の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめが進まない生徒には、グループ学習での友達の考えや板書の重要語句を参考にまとめていくことを助言する。 ・家庭学習プリントを配布することで主体的に次時の学習に取り組むことができるようにする。 	

(4)板書計画

第2節 ゆれ動く武家政治と社会

6 元軍の襲来

「元寇は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのでしょうか。」

予想・・・幕府の力が弱まった・幕府が滅んだ

検証 1274年 文永の役 九州北部に元軍上陸
御家人集結・暴風雨で退却
→20kmの防塁を築く

1281年 弘安の役 元軍上陸できず

元軍 てつはう 軽装 集団戦法
資料：「蒙古襲来絵詞」
(戦いの場面)

日本軍 弓矢・刀
よろい
一騎打ち

☆竹崎季長は、なぜ鎌倉にいったのか。

安達 [学習シート]	竹崎 [学習シート]
・恩賞は与えられない	・恩賞を下さい
・新たな土地がないのだ	・戦った分の御恩を下さい
・恩賞がたりない	・もらわずには帰れない

御家人…幕府への不信感・生活が困窮(←徳政令)

↓

世の中が混乱、幕府の力がおとろえる

1333年 鎌倉幕府がほろびる

まとめ…〔御家人・土地・主従関係〕を使う

元寇の後、幕府は御家人に対し十分な土地を与えることができなかった。御恩と奉公の主従関係が崩れたことで幕府の力はおとろえた。